

梅津だより 臨時号

学校評価アンケート（前期）の結果より

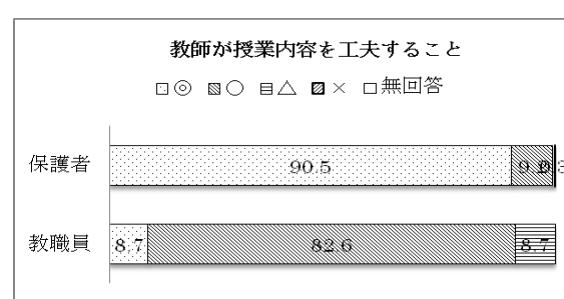
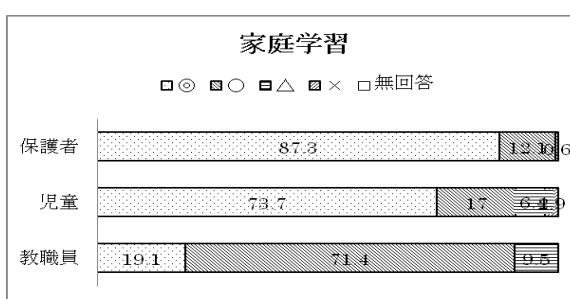
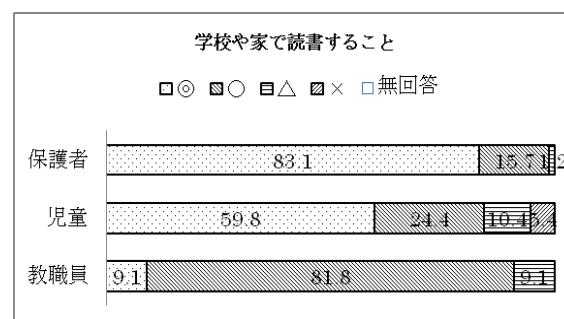
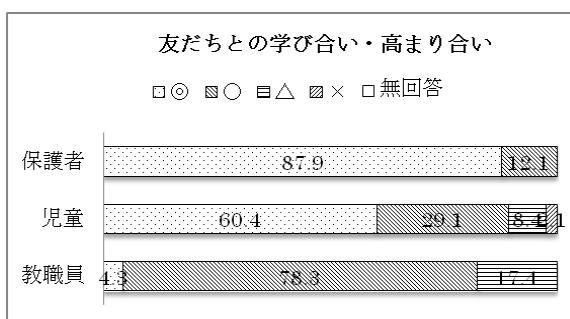
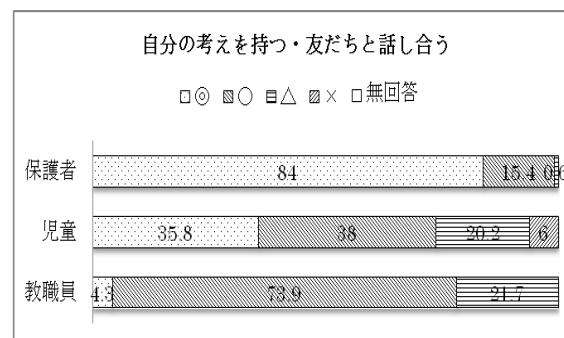
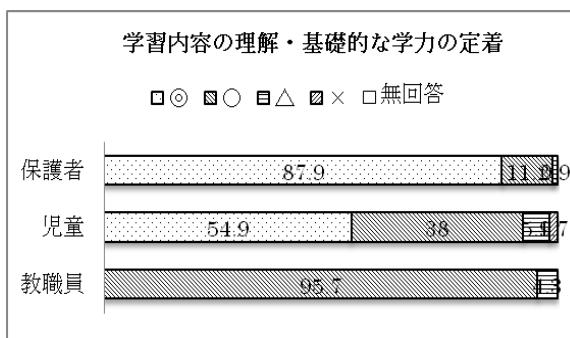
平成26年 9月 9日

京都市立梅津小学校
校長 若松 秀一

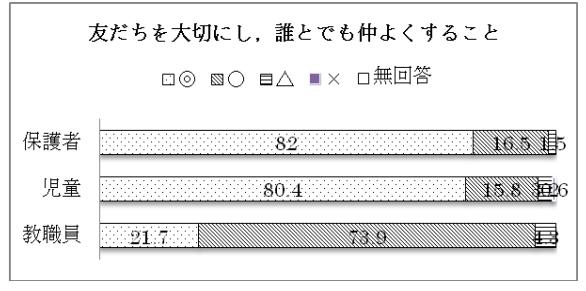
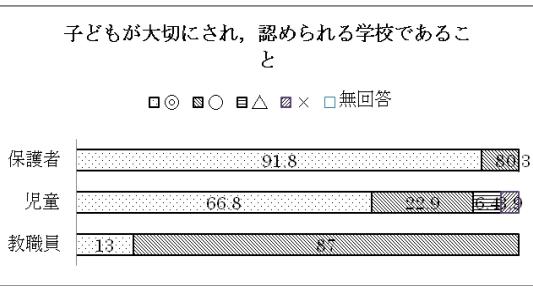
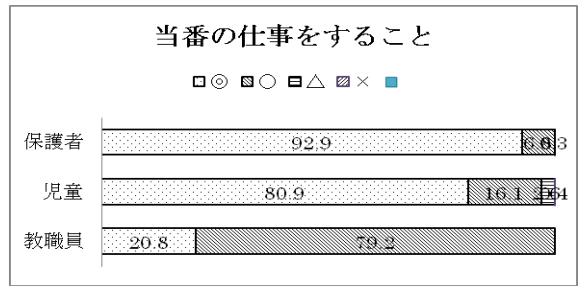
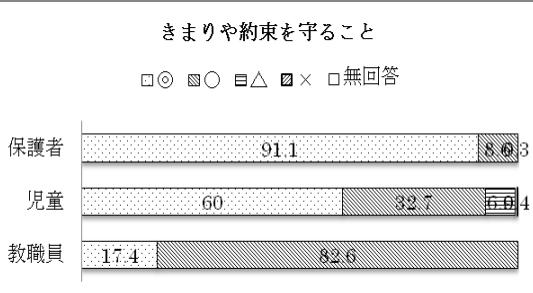
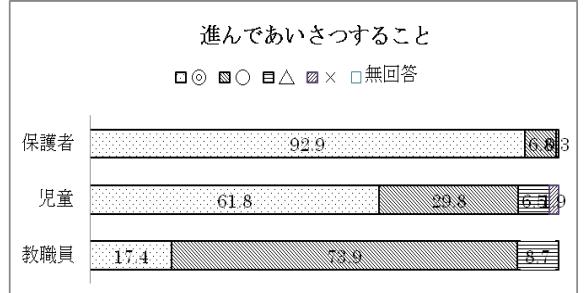
7月に実施しました「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。今回、保護者の皆様からは83.1%の回答を得ることができました。結果がまとまりましたので報告させていただきます。今年度は評価項目について見直しを行いました。梅津小学校教育を進める上で、特に大事にしたいことに絞ってアンケートをとり、保護者・児童・教職員の3者の比較ができるようにしました。保護者の方にはその項目についての「重要度」を、児童にはどれだけできているかの「実現度」を、教職員にはどれだけ指導をしているかについての「実現度」を尋ねました。グラフにして並べることで、重要度に対しての実現度が比較できると思います。

グラフについては、全て棒の左から○、△、×の評価で表しています。また、児童の数値は、1年生から6年生までの平均値で出してあります。

確かな学力



豊かな心

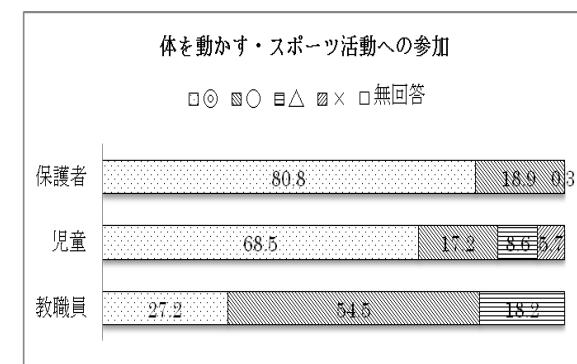
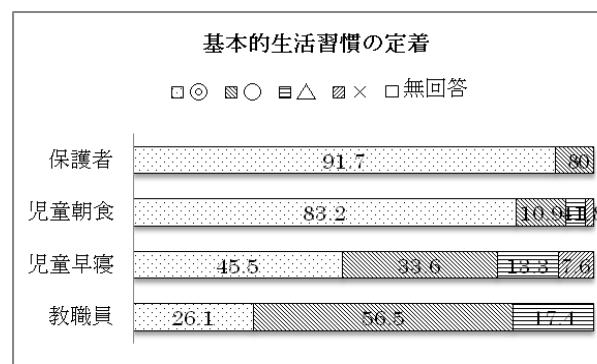


「確かな学力」「豊かな心」とともに、重要度に対する実現度が低くなっている傾向が見られます。

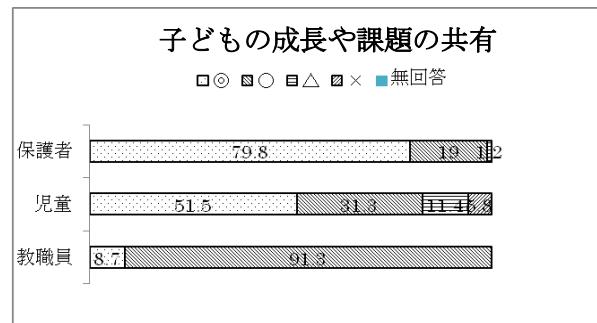
特に、「自分の考え方をもち、友だちに伝える」ことが児童の実現度は70%強と課題があることがはつきりしました。この項目では、学年が上がるにつれて実現度が低くなっています。「自分の考えはあるが、発言はしない」「自分の考えがちににくい」「自分の考え方を伝え合う場が授業の中に設定されていない」等、理由はいろいろと考えられますが、何を発言しても受け入れられる学級づくりや、授業改善を通して、児童の実現度が上がるようと考えていきたいと思います。

「あいさつ」や「きまりを守ること」については、○(だいたいできている)の児童も含めると、実現度は9割を超えていますが、○(よくできている)の割合がもっと高くなってほしい項目です。朝会で学校長が常に話をしており、学校全体で「することが当たり前」になるように、引き続き取組を進めています。

健やかな体



連携



「健やかな体」「連携」とともに、重要度に対して実現度が低くなっています。

「健やかな体」では、「早寝早起き」ができていない児童の割合が20%強となっています。学年が上がるに従って、夜遅くまで起きている児童が増えています。充分な睡眠をとることは、学力をつける上での大きな支えになります。また、朝食をとっていない児童も6%ほどですがいます。児童が望ましい生活習慣を身につけ、充実した学校生活が送れるよう、ご家庭でのご協力をお願い致します。

「連携」については、児童には「大人の人（学校の先生や家人の人）に、いろいろな話や相談をしていますか。」という質問をしています。8割強の児童が「している」と答えていますが、逆に見ると2割弱の児童は「していない」ことになります。友だちに相談したり、自分たちで困りごとを解決したりしているのだと思われます。しかし、大人は子どもの様子を常に把握しておく必要があると思います。学校の様子や困っていることなど、何でも大人に話せばいいんだという安心感を子どもにもたせたいですね。「いつも見守っているよ」という姿勢を大人は忘れないようにしたいものです。お子さまのことで何かありましたら、ご遠慮なく学校にもご相談ください。ご家庭と学校が協力して子どもの成長をサポートしていくよう、よろしくお願ひ致します。

学校運営協議会より評価結果についてのご意見をいただきました

- ・授業参観や懇談会への参加率はどうだろうか。懇談会に参加して、子どもの様子を交流し、共有することはとても大切だと思う。
- ・人の顔を見て会話しない子どもが増えているように思う。これもスマートフォンやケータイの普及による弊害だろう。大人も考えていかないといけない。
- ・豊かな心を育むために、体験活動はとても大切である。今後も、子どもたちの体験活動をサポートしていくきたい。
- ・「朝ご飯を食べている」児童が100%ではないことにびっくりしている。子どもにとって、家庭は一番大事なもの。基本的な生活習慣や「しつけ」に関しては、家庭でしっかり身につけさせてもらえるようにお願いしたい。
- ・子どもたちの「悩み」とはどんなことなのだろう。
- ・言葉づかいが乱暴な子どもが多いように思う。子どもは、大人の言葉づかいを知らず知らずのうちに身につけてしまう。大人が気をつけていかなければならない。
- ・子どもの成長には縦・横のつながりだけでなく、斜めのつながり（地域とのつながり）を築いていくことが必要だと思う。子どもと地域がつながっていくように、これからも取組を進めていきたい。

保護者の方より

- ・あいさつは以前に比べ、できるようになってきていると感じる。でも一部の先生方で、朝登校時に会ってもあいさつされない先生がおられるのが残念です。子どもの見本となる方なので…。
- ・先生の中には、子どもに対してきつい言い方の方がいらっしゃるみたいに思えます。言い方ひとつで子どもの受け取り方は違います。子どもにとって勉強だけでなく、心の豊かさを育てるような言い方をしてほしいと思います。
- ・先生は授業中だけでなく、常に丁寧な言葉で子どもと接してほしい。
- ・放課後やサマースクールなど、補習をしてもらえる時間がもっと増えるといいと思う。土曜日も…。
- ・最近の教育現場は保護者に対しての気の使い方が少し過剰に感じる。教育者がその理想と信念をもって子どもに向き合っていただけるならば、それでよいと思う。目上や友人との人付き合いでの理不尽や我慢を覚えるのも、学校での生活が大きく影響すると考えます。
- ・子どもよりも先に生まれた先輩として、私たち大人が経験し、学び、感じたことを子どもたちに伝えていければいいなと思います。

その他にも、いろいろなご意見をいただきました。教育者としての姿勢や、学習・生活両面への学校としての指導のあり方等へのご意見を多くいただいている。

回答していただいたアンケートの結果をみると、どの項目に対しても「重要だ」と捉えておられる割合が高く、本校が大事にしたい教育と共有できていると認識でき、嬉しく思っております。昨年度より教育環境の整備に力を入れ、子どもたちの学習を支える環境づくりを進めているところですが、今回いただいたご意見は真摯に受け止め、改善すべきところは改善し、学校教育を進めていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。